

アークス通信 一般社団法人人権問題研究協議会

メルマガ読者の皆様、暑中お見舞い申し上げます！

ジメジメと蒸し暑くて体力を消耗しがちな夏。

それに加えて、新型コロナの感染が再び拡大し、マスク着用も継続。そこへ今度は天然痘に似た「サル痘」の感染者が都内で初めて確認されたそうです。ウクライナ問題も続いている、原油価格の高騰で物価高に悩まされ、節電や節水などにも気を使って過ごさなければならない状況です。

国民はあらゆる面で自粛生活を強いられている中で、銃撃により他界された安部元首相の国葬が閣議決定され、9月に執り行われるという。首相官邸前などでは反対デモも行われ、アンケート結果を見ても反対の声は日増しに多くなっているにもかかわらず強行されようとしています。世界平和統一家庭連合(旧統一教会)と安部元首相及び自民党議員らとの関係も問題視されていますが、日本ではメディア統制されているせいか真相究明しようという動きが鈍いと感じるのは私だけでしょうか。

真相究明と言えば、37年前の8月12日に起きた日航ジャンボ機墜落事故。こちらも真相究明がされず未解決になっています。犠牲になられた520人の乗客・乗員の方々の御霊のご平安をお祈り致します。皆様もどうぞご自身を大切にされ、元気にこの夏を乗り切ってください！

Topics—.....—

【1】 コロナ禍でガンに罹患した当協議会役員の体験記

【2】 書籍販売のお知らせ

【1】 コロナ禍でガンに罹患した当協議会役員の体験記

◆◆-----◆◆

「ガンとコロナ禍とわたし」

●日本社会は成熟した？

下咽頭がんに罹患し、化学療法を経て喉頭全摘出手術を行ったため、私には声帯がない。そのため、声を介した会話がいまはできない。

話せないことや、化学療法や手術の影響で体調に変化があるなど罹患以前と異なることがたくさん起きている。そうした観点から、社会のさまざまな環境に身を置いたり、人と会ったり、仕事をさせていただくなかで自分なりに感じたことを書かせていただく。

コロナ禍であることとからめていけば、マスクをつけたり、ソーシャルディスタンスを保ち、なるべく音声を介した会話を控えるように、という社会の共通理解のようなものがある。

これらは、どちらかというと、私の今の状態ではありがたい。気持ちの面で「私だけがみんなの外にいる」という感覚はおぼえにくいからだ。

そうでなくとも、私の行動範囲において、「話せないという障がい者であることで非情さを感じる」ことは私はあまり経験していない。

これはちょっとした驚きでもある。同時に日本はある程度成熟した国でもあるのだなとも感じる。

買い物をはじめなんらかのサービスを受けるにあたっては、ほぼ不便を感じない。サービスの担い手はみなさんとても親切だ。電子式のコミュニケーションボードやメモ帳を利用して文字により相手に意思や情報を伝えれば、相手の方は心優しく対応してくれる。

日本の接客サービスは一級品と言われるだけある。

もし不便とすることがあるならば、「話せない＝聞こえない」と早合点される場合がある点だ。

私が文字で意思を伝えると同じくメモで返してくださることがある。そうであっても耳を指差し、聞こえることを伝えるようにすれば、すぐに理解してくださる。

いちど自治体の出張所で、ボードを介してやりとりをしたのち、手話で返していただいたことがあった。手話で返してくださった職員の方には、笑顔で返した。ちなみに、友人のなかには手話の習得をすすめてくださる方が何人かいる。今のところ手を出していない。なまけものせいだ。

公共の場には「筆談ボードあります」とあらかじめ掲げているところもある。

私が利用したなかでは区役所や都バスがそうだ。ただ、都バスは、さまざまな決済方法による乗降客がある。運転に加えてそうした接客対応でも多忙な運転士の方が、どこまで筆談ボードでの会話に応じてくださるのかな、とちょっと気になる。

●テレワークは身障者の潜在力を引き出す？

働き方、という点でいうと、コロナ禍で一気にテレワークが広まったことは大きい。

私には、これがとてもありがたい。体力が以前に比べて低下し、体調が不安定なこともあり、テレワークをメインにさせていただいている。

最近は朝の定例会その他の会議や打ち合わせを、会議室で行うのではなくオンラインで行うことも多い。私の職場では、自席でオンラインで行われることがほとんどだ。目の見えない方も、外出することなく、会議に加わりなおかつ、一部業務のメインを担う。

そうした環境が自然であるなか、テレワークは働き方の選択肢として多くの障がい者にとり利用しやすい。

また、テレワークとはすなわち、声による会話よりもデジタルツールにより、主に文字やデータを介して仕事を行うことだ。喉頭全摘出者にとって非常に働きやすい。

さらに幸いなことに私の職場では周囲の方々の温かなご理解もある。自治体からの出向の方も多く、住民サービスで培った思考、姿勢を現在の仕事で自然に発揮されていらっしゃる印象だ。

一方、健康状態に目を向けると、コロナに対する耐性という点で私はきわめて感染リスクの高い人物の1人ではある。

まず白血球の値が低い。免疫力が低いのだ。本来なら人混みは極力避けるべきだ。新型コロナについては、新種がどんどん出てきているし、著名人や芸能人の方々のなかにも「え、この方が？」という方々が感染し、自宅で療養されたり入院され、なかには亡くなられている。外食も公共交通の利用も、避けるのが、もっとも感染リスクを下げる対策だ。

健常者の方でさえそうなのに、ガンに一度罹患した者にとり、一步外へ出れば、危険はまわりにいっぱいなのだ。人権侵害とはいえないが、危険度が高いのは事実だ。

ただ、新型コロナ感染ばかりを気にしすぎていると、何もできない。外に出ず、人とも会わず、体も動かさず…となんらの刺激を受けなければ、思考も感情も硬直化してしまう。かえって心身によくない影響を及ぼす。とくにメンタル面で、良い意味での起伏が減り、ワクワク、ドキドキするポジティブな感情がない状態が続けば、身体にも影響を及ぼしかねない。コロナでなくとも身体全体の健康力がダウンしてしまいそうだ。

●「障がい者」になってはじめてわかること

もっと俯瞰して世の中を見回せば、人権侵害という観点からも、さまざまな課題が見えてくるのかもしれない。精神的にすでに障がいといわれるまでに病んでいた方々のなかには、コロナ禍においてメンタルがさらに内に向いてしまい、症状を悪化させてしまわれた方もいらっしゃるだろう。

私と同じ喉頭全摘出者のなかにも声を出せない、という自身の境遇を嘆いて、あるいは、従来のコミュニケーション方法との違いに馴染めないまま、自身を世間から引っ込めてしまう人がいるかもしれない。課題があるとしたら、そうした方々が、ことさらに世間にアピールすることなく、それまで享受できていたご自身なりの心地よさや安心感をシューとしぼませたまま、私たちが気づいて差し上げられていないことだ。

私の場合は、今の身体状態になったからこそ感じた人の温かさなど、ありがたい気づきが多い。これまでさほど親しくないと思いついていた方の思いがけない優しさも知った。

病を経験して、これまでの自身がいかにかのぼせあがり、つけあがり、いろいろな事柄に向き合わないままに生きてきたかも、思い知った。

障がいを持つ方々への、自身の視点がいかにか雑だったかも、障がい者になって初めて実感したことだ。誰にでも人権はある、などと偉そうに言っていたが、理屈で分かった気になっていただけだった。

●新生なる自身との向き合い方

体感や経験を通して、自身の生きてきた道を振り返る機会は増えてきた。話せなくとも、さまざまな方とコミュニケーションがとれるのは本当にありがたい。多くの方から勇気や思いやりも頂けているというのが実感だ。

ただ、身体状態は、一気呵成によくなるものではないようだ。順調だな！と思い、ガン罹患前と同じ感覚で、張り切りすぎると「ちょっと待って」と体は言う。

一つひとつの自身の変化や障がいに向き合いながら、新しくなった自分を愛して生きていくことの大切さを味わう日々だ。

先日は、張り切りすぎが嵩じたのか腸閉塞となり緊急入院・手術となった。ガンを治すための手術で、腸の一部を食道上部に移植した。そのため、腸の働きが健常者に比べ少し「のんびりや」なことをすっかり忘れていたようだ。

新生となった自分と向き合いどうにか軌道にのるまでには少し時間がかかりそうだ。

～次回へ続く～

一社) 人権問題研究協議会理事・ NPO 法人なりわいプロジェクト代表・AllianceYouToo 共同代表古怒田悦子
.....

今号では、当団体の理事の 1 人・古怒田悦子さんの手記をご紹介致しました。

古怒田さんは長時間に及ぶ下咽頭がんの喉頭全摘手術を受けたのち、再び腸閉塞で緊急手術を受け約1カ月入院されました。そんな古怒田さんに心からのエールを送りたいと思います。

しばらく静養されるそうですが、もっと元気になったら又皆様の元に第2段をお届けする予定です！

◆◆-----◆◆

【2】書籍販売のお知らせ

◆◆-----◆◆

① 新刊「心をつなぐエッセイ集」

<https://onl.bz/VtXjd1h>

心をつなぐエッセイ集

編著 一般社団法人人権問題研究協議会

迷ったとき、辛い時、苦しい時、
味方になってくれる人がここにあります

障がい者、LGBTQ、年配者、いじめや虐待を経験した人たち...
様々な人たちの思いが詰まった珠玉のエッセイ集！

差別や偏見のない、平和で安全な世界を願って 牧歌舎

発行: 牧歌舎・発売: 星雲社

②「性暴力対策ガイドブック」

<https://onl.bz/yn3MaJ3>



発行： 人権問題研究協議会

「性暴力対策ガイドブック」人権問題研究協議会編著 アマゾンよりただいま絶賛発売中！

子どもの性被害が増加傾向にある中で、女性や男性も含めた性暴力被害の実態を知り、支援につなげることを目的に出版致しました。

・POD 定価 1,210 円(税込)・Kindle 版(電子書籍)660 円(税込) (Kindle Unlimited 会員は、¥0 で読み放題)

◆◆—————◆◆

次号予告：9月24日（土）配信予定です。